

には 251,000 千本と、鉢物については、平成10年の生産量 3,562 千鉢が、平成22年には 6,000 千鉢と、それぞれ大幅な伸びが見込まれる。

### (3) 卸売市場流通、卸売市場を経由しない流通等の現状と見通し

経済社会の国際化、情報化の進展は、交通網や輸送技術の発達とあいまって生鮮食料品等の広域流通を促進させ、その結果、食に対する平準化が進行するに至った。

また、高齢化の進展、生活スタイルの変化、女性の社会進出や単身世帯の増加等を背景に、食の外部化、簡便化が広まるとともに、健康・安全志向等が高まってきた。

こうした消費者ニーズの多様化を受けて、小売業態においては食料品専門店等のシェアが低下し、スーパーマーケットなどワンストップショッピングに対応した業態やコンビニエンスストア等のシェア拡大、外食等の業務用需要が拡大している。

このような大型ユーザーは、価格や荷の確保の両面で確実かつ安定的な取引を望んでおり、卸売市場においても、このようなニーズに適切に対応していくことが必要と考えられる。

一方、農協合併等の進展により、主として青果産地の大型化が急速に進んでいる。大型化した産地は、安定的な取引やコストに見合った価格形成等の面で、その影響力を強める傾向にあり、今後、このような動きに対しても、適切に対応していくことが急務となっている。

#### ① 本県の卸売市場における流通の現状と見通し

##### ア 青果物

##### (7) 野菜

平成10年の卸売市場流通量は、289,345 トンであり、平成22年における卸売市場流通量は 314,782 トン（平成10年対増加率 8.8 %）になるものと推測される。

## (イ) 果 実

平成10年の卸売市場流通量は、127,327 トンであり、平成22年における卸売市場流通量は 133,680 トン（平成10年対増加率 5.0 %）になるものと推測される。

## イ 水産物

平成10年の卸売市場流通量は、107,568 トンであり、平成22年における卸売市場流通量は 105,406 トン（平成10年対増加率マイナス 2.0 %）になるものと推測される。

## ウ 食 肉

平成10年の卸売市場流通量は、899 トンであり、平成22年における卸売市場流通量は 846 トン（平成10年対増加率マイナス 5.9 %）になるものと推測される。

## エ 花 き

## (ア) 切り花

平成10年の卸売市場流通量は、116,846 千本であり、平成22年における卸売市場流通量は 151,167 千本（平成10年対増加率 29.4 %）になるものと推測される。

## (イ) 鉢 物

平成10年の卸売市場流通量は、2,372 千鉢であり、平成22年における卸売市場流通量は 4,115 千鉢（平成10年対増加率 73.5 %）になるものと推測される。

表2 卸売市場流通の現状と見通し

(単位：t、千本、千鉢)

品 目		平成10年 (基準年度)	平成22年 (目標年度)	増加率(22/10)(%)
青 果 物	野菜	289,345	314,782	8.8
	果実	127,327	133,680	5.0
	合計	416,672	448,462	7.6
水産物		107,568	105,406	△ 2.0
食肉		899	846	△ 5.9
花 き	切り花	116,846	151,167	29.4
	鉢物	2,372	4,115	73.5

## ② 卸売市場を経由しない流通等の現状と見通し

生鮮食料品等は、貯蔵性・規格性に乏しいという商品特性のため、卸売市場流通が主体を占めている。

しかし、冷凍魚や食肉における部分肉のように貯蔵性、規格性を有する品目や輸入品にあっては、冷蔵・冷凍施設の整備等もあり、商社等の参入による卸売市場を経由しない流通が拡大してきた。

一方、消費者の健康・安全・鮮度に対する志向は、青果物における有機・低農薬栽培や委託・契約栽培による野菜・果実等の宅配便、通信販売等、水産物における活魚の配送システム等の普及とともに産直といった新たな流通チャネルを確立させた。

また、量販店・大手外食産業・宅配業者等は、価格や供給の安定化と消費者ニーズの多様化に対応するため、生産者・出荷者と直接、取引を進めており、今後もこうした市場外流通のウエイトは高まっていくものと思われる。

このように、卸売市場をめぐる環境は大きく変化してきているが、これまで、卸売市場は、多数の産地から出荷される多種多様な生鮮品全般を対象とし、かつ、その流通の大部分を取り扱っており、需給・価格調整を行ってきた。